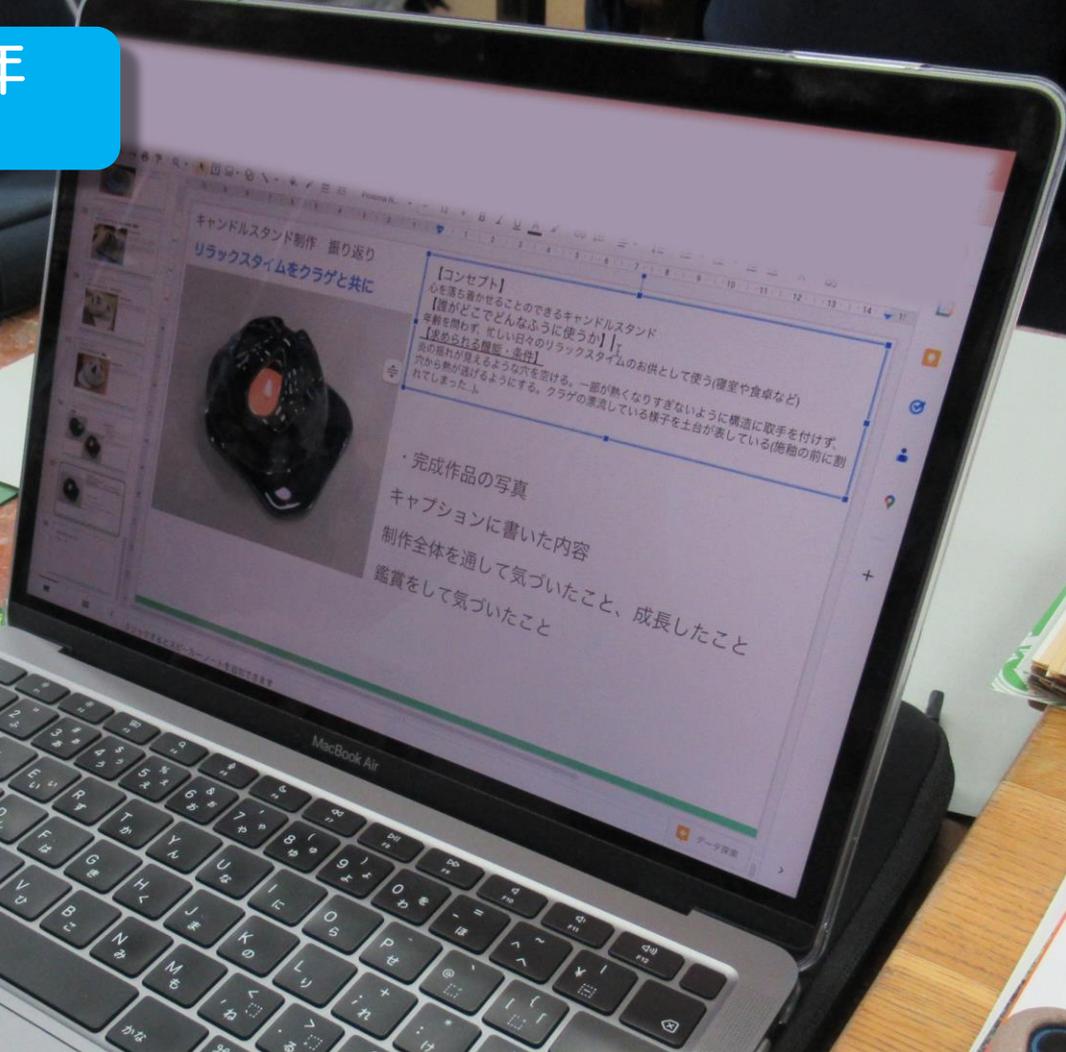


# 高等学校第1学年 芸術科（工芸I）



**作品を制作する過程で、必要なところで振り返りを行い、端末に、制作途中の作品の画像を取り込み、前回の課題に対しどう取り組んだか、また、現在の課題と今後どのように取り組むかを記入し、自分の考えを確認する。**

# 高等学校第1学年 芸術科（工芸Ⅰ）

## 「人々の生活を豊かに演出する ～キャンドルスタンドの制作～」

### ■ 題材の目標

形や色彩、素材、光などの性質や感情にもたらす効果、造形的な特徴を基に全体のイメージなどで捉えることを理解する。使う人の願いや心情、生活環境から生活を心豊かに演出するキャンドルスタンドを社会的な視点で発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさの調和を考え、制作の構想を練り、意図に応じて材料や用具を生かすとともに、手順や技法などについて考え創造的に表す。作者の心情や意図と陶芸の制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深める。また、感性を高め、工芸を愛好する心情を育み、主体的に社会的な視点に立って発想や構想をしたり、創造的に表したり、作品を鑑賞したりするなどして表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

### ■ 題材の概要

使う人の願いや心情、生活環境などから生活を心豊かに演出するキャンドルスタンドを社会的な視点に立って発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさの調和を考え構想を練り、創造的に表す。

### ■ 題材の指導計画（20時間）

#### 第1次

- ・ 工芸作品を鑑賞し、社会的な視点に立って作者の意図と素材の生かし方、技法について考え、見方や感じ方を深める

#### 第2次

- ・ 社会的視点に立って、機能や美しさの調和を考え、アイデアスケッチを描く。
- ・ アイデアスケッチを相互に鑑賞する。

#### 第3次

- ・ 発想や構想をしたことを基に、材料や用具、手順や技法を吟味しながら創造的に表す。

#### 第4次

- ・ ランプを付けた状態で完成作品を鑑賞する。

様々な工芸作品を鑑賞し、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え意見を発表し合い、様々な意見から、更には作品から、より深く考えるようにする。

機能や美しさの調和とともに、使う人や社会的な立場に立って考えられるように、アイデアスケッチを相互に鑑賞する時間を設定する。

発想や構想したことを基に、材料や用具の特性を生かすため、作成方法や技法が分かる画像や映像を端末でいつでも確認できるようにしておく。

# ■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第1次）

## 【学習活動の場面】

題材の第一次の鑑賞の活動では、本物の工芸作品を実際に触って、社会的な視点に立って、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作の過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考えたことを発表し合う。また、表現活動では制作過程で必要に応じて制作途中の作品の画像を端末で撮影し取り込み、その時学んだことや気付いたこと、課題を記入し、その課題にどう取り組むか考えたことなどを記入する。その際、発想や構想の後半段階で教師は、「**使用する人や場面、機能と美しさの調和などをもう一度考えてみよう。**」と投げかけた。

## 【子供の「深い学び」の姿】

### ○ アイデアスケッチをお互いに発表した。

A「Bさんの作品は、優しい感じがして気持ちがほっとする。」

B「Aさんの作品は、持つところの形がかわいいね。」

### ○ 教師が機能と美しさの調和、使う人や場面などについて確認し、更に生徒は作品を鑑賞して話し合った。

A「羊の形や、窓が小さいので優しい感じが伝わってくる。」

B「もっと持つところを大きくすると誰でも持ちやすいね。」

### ○ 他者の意見から、アイデアスケッチを修正しそれをまとめる。

A「より優しい感じにするためふわふわした質感も表したいな。それと、Bさんのように使いやすさにも気を付けてみよう。」

## 【当該指導での「深い学び」】

AとBはアイデアスケッチをお互いに鑑賞して、よさや美しさを伝え合った。その際、教師から、機能と美しさの調和と使う人や場面などについて更に話し合うように促され、お互いの意図や表現の創造的な工夫などについて考え発表し合い、よりよくするためのアドバイスも行った。この客観的な視点から、機能と美しさの調和についてアイデアスケッチを更に修正し、修正したことを端末に画像とともに記入することで、自分の考えがより明確になっていた。その際、教師は、造形的な視点で捉え、形や色彩などの感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に全体のイメージなどで捉えることを意識できるようにしていた。

## ■指導上の工夫とICTの利活用

### ① 作品を鑑賞する。

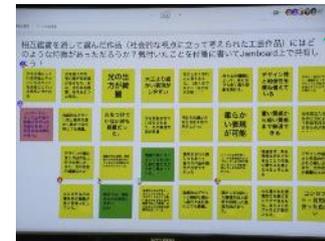
\* 作品から感じ取ったり考えたことを端末上に記入しクラウドに上げ発表した。教師が、様々な視点や考えがあることについて紹介する。

### ② お互いの作品について話し合い、参考になる意見から、更に考える活動を位置付ける。

\* 他の生徒の感想やアドバイスからアイデアスケッチについて客観的に捉えることができ、考えたことを端末に記入し、課題を明確にする。

### ② 鑑賞したことや作品の過程を撮影し、その時の考えなどを記入する。

\* 他の生徒の意見から、考え直したことや、自分で気付いた課題をどのように試行錯誤し挑戦したかなどを画像と一緒に端末に記述し、次の時間につなげたり、積み重ねたりして自分の学びが確認できるようにする。



# 学習指導要領や解説との関連

## 高等学校学習指導要領 第2章第7節芸術 第7 工芸 I

### 2内容

#### A表現

##### (2) 社会と工芸

社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

##### ア 社会的な視点に立った発想や構想

(ア) 使う人の願いや心情，生活環境などから心豊かな発想をすること。

(イ) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え，制作の構想を練ること。

#### B鑑賞

##### (1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

##### ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞

(イ) 社会的な視点に立ってよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方，技法などについて考え，見方や感じ方を深めること。